

# 関数の使用

## 関数例

関数	機能
Sum ([フィールド名])	フィールドの合計
Avg ([フィールド名])	フィールドの平均
Max ([フィールド名])	フィールドの最大
Min ([フィールド名])	フィールドの最小
Count ([フィールド名])	フィールドの個数
Int (値)	値の切り捨てた値
Abs (値)	値の絶対値
DateDiff (時間単位, 日付1, 日付2)	日付1から日付2までの期間
Time ()	現在の時間
Date ()	現在の日付
Iif (条件式, 真の時, 偽の時)	条件に一致した時真、不一致の時偽を実行
Len (文字列)	文字列の長さ
Mid(文字列, 開始位置, 文字数)	文字列を開始位置から文字数分取り出す
Left (文字列, 文字数)	文字列の左から文字数分取り出す
Right (文字列, 文字数)	文字列の右側から文字数分取り出す
InStr (文字列, 検索文字列)	文字列から検索文字列を探す

# 日付関数の使用

社員台帳テーブル: テーブル				
	社員番号	社員名	生年月日	購入額
▶	1	上田	82/09/10	2000
	2	中森	68/03/07	160
	3	下崎	70/08/10	400
	4	佐々木	80/05/19	700
*	0			0

テーブルを作成し、データを4件入力してあるとする。

期間を求める関数  
...DateDiff(時間単位,  
日付1,日付2)

時間単位には、年数  
..."yyyy" 月数..."m"  
" 日数..."d"

年齢: DateDiff("yyy",[生年月日],date())

年数

生年月日フィールドの値から、本日までの期間

フィールド:	社員番号	社員名	生年月日	年齢	成人
テーブル:	社員台帳テ	社員台帳テ	社員台帳テ	年齢DaewDiff("yyy",[生年月日],Date())	成人If([年齢]<=20,"未成年","成人")
並べ替え:					
表示:	<input checked="" type="checkbox"/>				

成人: If([年齢]<20,"未成年","成人")

年齢フィールドの値が20未満か?

Yesならば、「未成年」という文字列を表示

Noならば、「成人」という文字列を表示

作成した選択クエリーを開いてデータを確認する

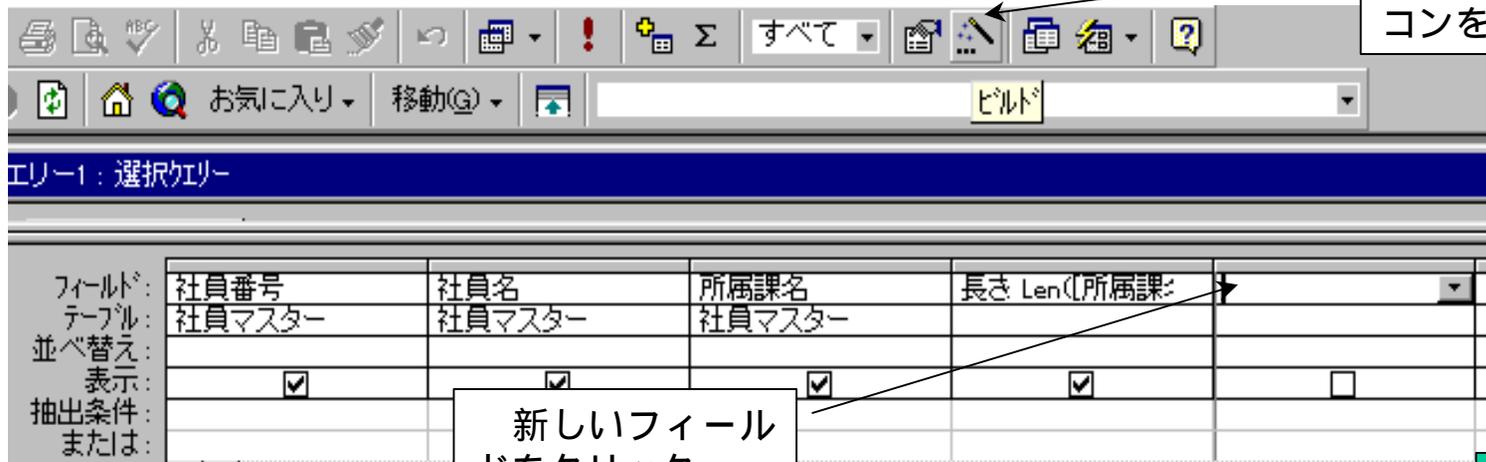
社員日付クエリー: 選択クエリー					
	社員番号	社員名	生年月日	年齢	成人
▶	1	上田	82/09/10	16	未成年
	2	中森	68/03/07	30	成人
	3	下崎	70/08/10	28	成人
	4	佐々木	80/05/19	18	未成年
*	0				

# 式ビルダは対話型で式を作成

## 文字列関数

新フィールドを作成し、所属課名に入力されている文字列の左側2文字を抜き出して表示するように指定する。

式ビルダアイコンをクリック



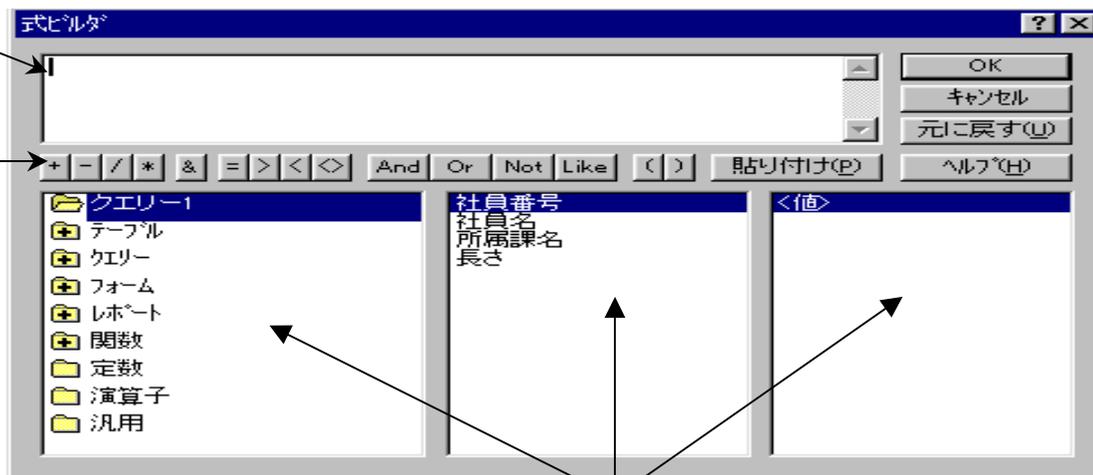
新しいフィールドをクリック

式ビルダ設定ボックスが開く

式ボックス

演算子ボタン

式ビルダで式が完全に作成されるとは限らない。あくまでも簡易適な補助的な式作成ツールと考えたほうがよい

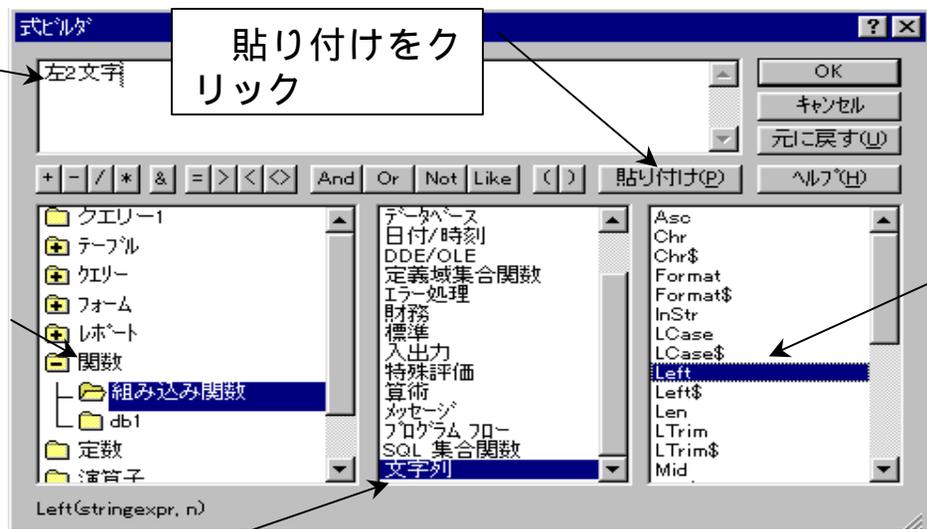


式の要素

# 式ビルダ2

新フィールド名を入力

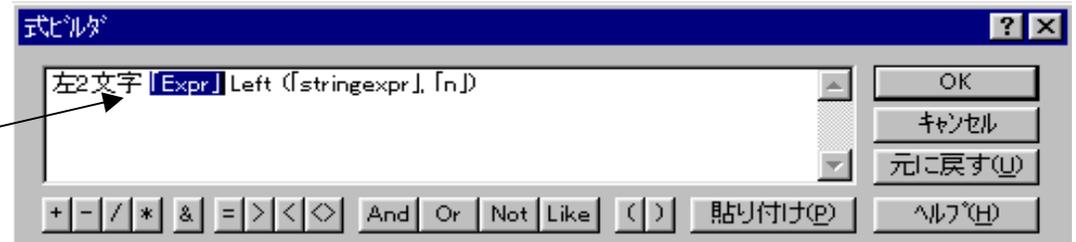
関数をダブルクリック 組み込み関数をクリック



使用する関数「Left」をクリック

文字列をクリック

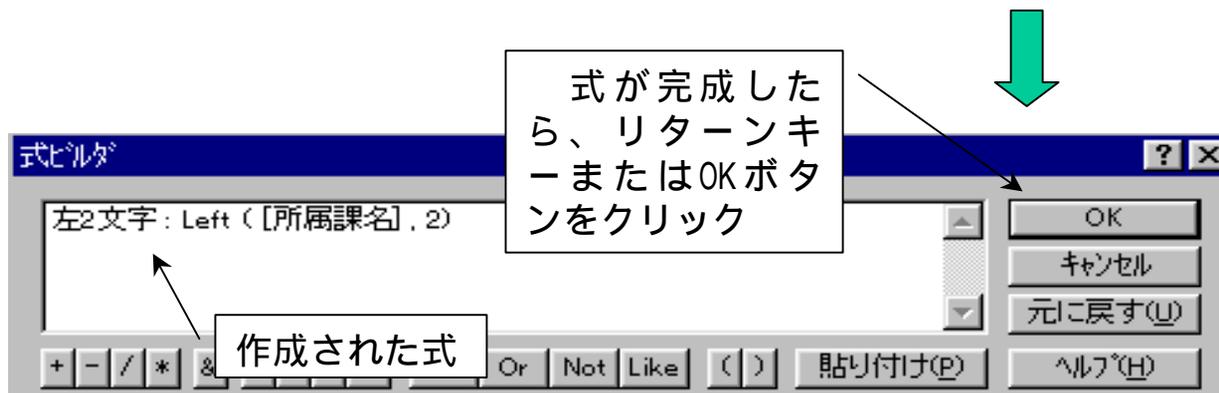
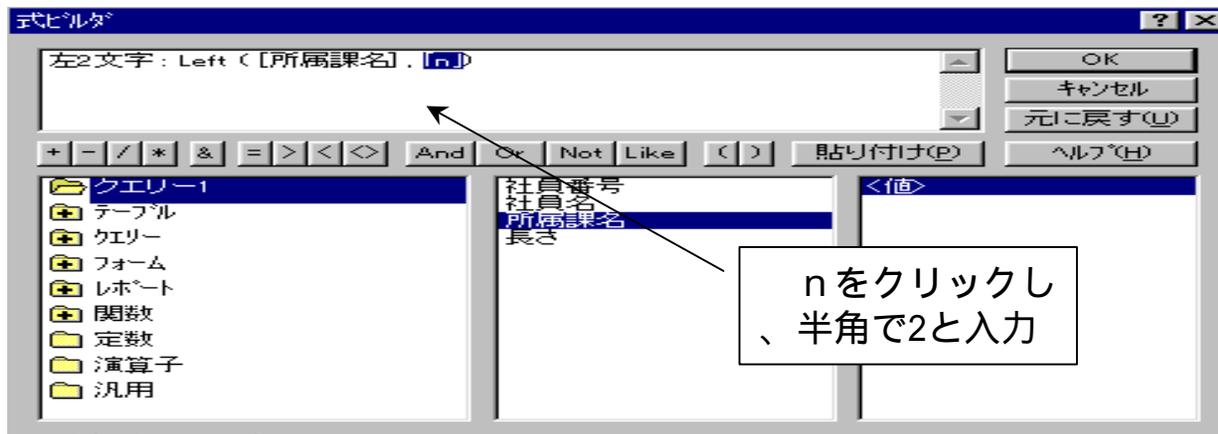
Exprの部分をクリックし半角の「:」を入力



クエリ1 所属課名 値をクリック

貼り付けをクリック

# 式ビルダ3



左2文字:Left([所属課名], 2)

完成した式

フィールド:	社員番号	社員名	所属課名	長さ Len([所属課名])	左2文字: Left([所属課名],2)
テーブル:	社員マスター	社員マスター	社員マスター		
並べ替え:					
表示:	<input checked="" type="checkbox"/>				
抽出条件:					
または:					

# フォーム上での集計関数の使用

社員番号	社員名	生年月日	購入額
1	上田	82/09/10	2000
2	中森	68/03/07	160
3	下崎	70/08/10	400
4	佐々木	80/05/19	700
0			0

「社員マスタテーブル」があり、4件のデータが入力されているとする。

(1) テーブルの各フィールドを貼り付けて、連結テキストボックスを作成。

非連結テキストボックスのアイコンをクリック

社員マスタテーブルの各フィールドを貼り付けて作成。基のテーブルと連結している

フッター上にボックス状にドラッグして非連結テキストボックスを作成

社員台帳テーブル

社員番号	社員名	生年月日	購入額
社員番号	社員名	生年月日	購入額

社員番号  
社員名  
生年月日  
購入額

社員番号  
社員名  
生年月日  
購入額

テキスト4

非連結

## (2) 非連結テキストボックスを作成



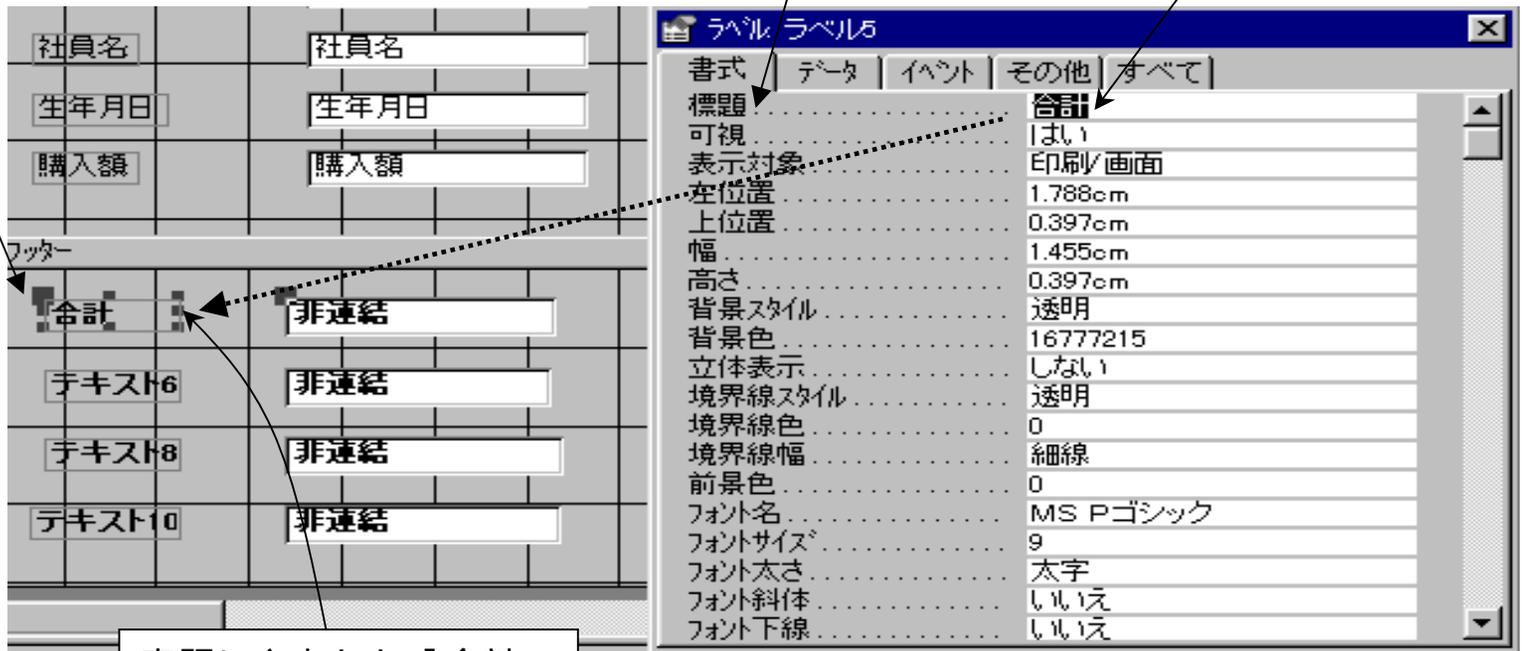
同様にしてあと3つ  
非連結テキストボッ  
クスを作成

## (3) 非連結テキストボックスのプロパティを表示させラベル名を入力

ラベル部分をダブルクリック  
し、プロパティを表示

ラベルプロパティの書式  
タブをクリック

表題に「合計  
」と入力



表題に入力した「合計」  
という文字に変わる

(4) 非連結テキストボックスのコントロールソースに関数を使用した式を入力する。

関数は、  
「=関数名( )」  
形をとる

データタブをクリック

ここをクリックすると式ビルダが起動

合計を求める関数を入力。  
=Sum([合計を求めるフィールド名])

テキストボックスをダブルクリックしてプロパティボックスを表示

同様に他のラベルも平均・最大・最小という文字表示にする

社員名	社員名
生年月日	生年月日
購入額	購入額
フッター	
合計	=Sum([購入額])
平均	非連結
最大	非連結
最小	非連結

書式 データ イベント その他 すべて

コントロールソース... =Sum([購入額])

定型入力... ..

既定値... ..

入力規則... ..

エラーメッセージ... ..

使用可能 はい

編集ロック いいえ

ルックアップ列 データベース既定

(5) 他のテキストボックスのコントロールソースにも式を入力。

= Avg([購入額])      = Max([購入額])      = Min([購入額])

合計	=Sum([購入額])
平均	=Avg([購入額])
最大	=Max([購入額])
最小	=Min([購入額])

# フォーム上での定義域集計関数の使用

フィールド名は半角の[ ]で囲む

定義域合計関数

フィールド名・テーブル名・条件式は" "で囲む

= Dsum(“[集計するフィールド名]”, “[テーブル名]”, “条件式”)

(1) 新規のフォームを作成する。  
フォーム名：社員集計とする。



フォームを新規作成する時に、基とする  
テーブルは何も指定しないようにする。  
(基テーブルと連結しない)

(2) コントロールのラベルに文字表示させる。



ラベル付きコントロールのラベルをダブルクリックして  
プロパティボックスを出す すべてのタブをクリック  
表題の欄に「定義域合計」と入力する。

### (3) 各コントロールを設定する。

=Dsum(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)

総務という文字は半角の' 'で囲む



### (4) 他のコントロールにも定義域関数を使用した式を入力する。

定義域集計関数	
定義域合計	=Dsum(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)
定義域平均	=DAvg(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)
定義域最大	=DMax(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)
定義域最小	=DMin(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)
定義域個数	=DCount(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)

#### 定義域平均

=DAvg(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)

#### 定義域最大

=DMax(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)

#### 定義域最小

=DMin(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)

#### 定義域個数

=DCount(“[売上げ”,”[社員表]”,”所属”=‘総務’“)